



人の輪と集落の和

平成21年度事業報告書 平成22年度事業計画書



目 次

ごあいさつ	1
第11回通常総会次第	2
第11回通常総会提出議案	3
平成21年度事業報告書	
部門別事業報告	4 ~ 15
貸借対照表	16
損益計算書	17 ~ 19
平成21年度剰余金処分案	20
付属明細書	21 ~ 22
監査報告書	23
平成22年度事業計画書	24 ~ 31
組織図	32

組合員のみなさまへ

本日ここに第 11 回の通常総会を開催するにあたり一言ご挨拶申し上げます。昨年の総会で新体制が承認されてから、政権交代が象徴するように世の中は大きく転換し、今後の不透明感が増すばかりであります。しかしながら、これを組合のあり方を見直すチャンスととらえ、新たなビジョン策定を進めているところであります。組合員の皆様や関係各位には何かとお願いすることばかりですが、より一層のご協力とご支援をお願い申し上げます。

平成 21 年度事業を振り返りますと、第四次 3 ヶ年計画の中間年として「生きていく」つまり事業外の収益に頼らない経営のあり方を徹底して詰めた一年でした。前半は、天候等外部要因に左右されない農産物の生産技術と基盤の確立をと組織一丸となって取り組み、後半は「天の恵み」に、より付加価値をと各部・各グループ一体となって磨きをかけ営業努力をいたしました。一步力不足にて計画通りの成果を計上するには至りませんでした。そのような状況下ではありましたが、着実に将来に向け以下の布石の礎となることができた年度でした。

新規に導入しました農業機械の祈禱式には関係各位のご臨席をたまわりましたこと、この場をお借りして御礼申し上げます。作業の安全を心がけ、今後も大切に使用させていただきます。

そのあとの「収穫感謝祭」は、発足 10 周年を記念して企画しましたが、多くの区民の皆様に参加いただき大盛況で終わることができました。イベントを通じ世代間の交流がはかれ、区民の方々に喜んでもらったことが一番の収穫です。

当組合への視察が相次ぐ反面、問題点も顕在化してきています。組合自身も現状を認識し、事業を再点検し、方向性を見直すべき時期にあります。現在、経営コンサルタントのアドバイスを受けながら、若手の意見を取り入れ、新たなビジョンを策定中です。今年度を新たなスタートラインと位置づけ、再出発（リ・スタート）してまいります。

集落営農の目的は、食を守ること、組合員を守ることですが、農地を含めた農村集落を守ること、さらには集落およびその地域を活性化することにあると考えます。「収穫感謝祭」のにぎわいは、まさに”人の輪と、集落の和”そのものであり、今後の方向性を見出すうえで大きなヒントとなることでしょう。年配者の知恵と若者の機動力を生かす現在の仕組みの良さを残しつつ、新しいことにも挑戦し、地域の「元気印」を目指してまいります。

平成 22 年 2 月 28 日

人は、人の為に成らずして、人にあらず

農事組合法人 酒人ふぁ～む

代表理事

小林 伊佐治

第 1 1 回通常総会次第

と き：平成 2 2 年 2 月 2 8 日（日）

午後 1 時 3 0 分より

ところ：酒人公民館 2 階大広間

- 1 . 開会のことば
- 2 . 代表理事あいさつ
- 3 . 来賓ご祝辞

（ 休 憩 ）

- 4 . 総会成立宣言
- 5 . 議長の選任
- 6 . 書記の指名
- 7 . 議事
- 8 . 閉会のことば

議長氏名	
------	--

議事録署名人	議長および出席理事
--------	-----------

組合員数	56人	出席人数	人
------	-----	------	---

第 1 1 回通常総会提出議案

第 1 号議案 平成 2 1 年度事業報告について

平成 2 1 年度事業報告、貸借対照表、損益計算書、
剰余金処分案及び附属明細書の承認について

P 4 ~ P 2 3

第 2 号議案 平成 2 2 年度事業計画の承認について

P 2 4 ~ P 3 2

附 帯 決 議

この総会において決議した事項のうち、行政庁に提出する書類で補正・変更を必要とする場合は、その趣旨に反しない範囲内において、その変更を理事会に一任する。

以上のとおり上程いたします。

平成 2 2 年 2 月 2 8 日

農事組合法人 酒人ふぁ～む
代表理事 小林 伊佐治

平成 2 1 年度事業報告書

部門別事業報告

生産部

[栽培]

21年度を振り返ると、世界的な金融危機、新型インフルエンザの発生、政権交代、農地法の改正等々21年の一文字に『新』が選ばれるほど、時代背景が変わった一年でした。農業面においては、全国各地で豪雨、台風、地震等による被害が発生しました。また低温、日照不足により21年産米の作況は全国では「98」となりましたが、滋賀県においては平年並みの「99」で推移しました。

我が集落においては、品質 環境に配慮した農業、コスト意識の徹底、的確な栽培管理を目標に取り組みました。

生産物別に報告しますと、水稻については、移植後の苗の活着は良好であったが、梅雨時期の多雨、日照不足、「ニカメイガ」の被害、登熟期の8月中旬から9月中旬までの低温傾向等により、品種間で差が生じました。また、倒伏を懸念した肥料の削減や散布時期を逸した事により収量に影響が出ました。特に羽二重糯においては、計画を大きく下回る結果となり、安定した収量確保に向けた取組の必要性を感じました。品質は、近年の温暖化傾向の中でありましたが、管理よろしく上位等級で終わりました。

稲わら供給事業は、水稻の収穫後の天候にも恵まれ、すこやかグループを主体に取り組み、昨年を大きく上回る実績になりました。ただ、羽二重糯作付け圃場の条件が悪く稲わらを取ることが出来ず計画には届きませんでした。

麦については、湿潤被害や赤カビの発生も無く、順調に作業を終えることができました。収量、品質とも圃場整備後での過去実績を上回る結果となりましたが、従前の収量・品質までは及ばずより安定した栽培管理に努める必要性を感じました。

大豆については、「種子大豆」「一般大豆」とも天候不順等による作業の遅れや未実施により収量減を招きました。なかでも「種子大豆」の播種と中耕培土・「一般大豆」(狭畦密播栽培)の播種の遅れ、更に雑草対策、病虫害対策等課題を多く抱えた年でした。選別については すこやか営農グループの皆様に連日、最後の磨きをかけて頂きました。

野菜については、両グループとも精一杯の取組をしていただきましたが、露地野菜における収穫前の天候不順、病気の発生、ハウス野菜での播種作業が出来ず計画を大きく下回りました。また、本年より期待していたイチジクが凍害により一からの出発に成ってしまいました。ただ、酒人ふぁ～むとして日々の現金収入を支えているのは野菜栽培であることは事実です。



出直すイチジク栽培は、露地における防鳥、防寒対策とハウスでのポット栽培に着手しました。

穀類生産実績

水 稻	計 画				実 績			
	栽培面積 (a)	生産量			栽培面積 (a)	生産量		
		収量 (kg)	俵 (60kg)	俵/反		収量 (kg)	俵 (60kg)	俵/反
うるち玄米	1,838	99,240	1,654	9.0	1,838	95,707	1,595	8.7
もち(羽二重)玄米	624	33,660	561	9.0	624	25,710	428	6.9
合 計	2,462	132,900	2,215	9.0	2,462	121,417	2,023	7.8

小 麦	計 画				実 績			
	栽培面積 (a)	生産量			栽培面積 (a)	生産量		
		収量 (kg)	俵 (60kg)	俵/反		収量 (kg)	俵 (60kg)	俵/反
農林61号	1,450	43,500	725	5.0	1,450	47,543	792	5.4
合 計	1,450	43,500	725	5.0	1,450	47,543	792	5.4

大 豆	計 画				実 績				
	栽培面積 (a)	生産量			栽培面積 (a)	生産量			
		収量 (kg)	俵 (60kg)	俵/反		収量 (kg)	俵 (60kg)	俵/反	
ふくゆたか	種子用	899	16,200	270	3.0	899	13,000	217	2.4
	食糧用	551	11,580	193	3.5	551	3,000	50	0.9
合 計		1,450	27,780	463	3.25	1,450	16,000	280	1.8

野菜栽培形態別生産実績(年間)

露 地	計 画				実 績			
	栽培面積 (a)	生産量			栽培面積 (a)	生産量		
		収量 (kg)	箱・kg	箱/反		収量 (kg)	箱・kg	箱kg/反
ブロッコリー	100.0	6,000	1,200箱	120箱	85.6	3,937	1,003箱 84kg	92箱
白 菜	30.0	8,100	540箱	2,700kg	40.4	7,184	390箱 1,334kg	1,778kg
えびす南瓜	40.0	4,800	480箱	120箱	45.2	1,360	136箱	30箱
いちじく	23.6		750パック		23.6	0	箱	
その他					3.0	100		33kg

ハ ウ ス	計 画				実 績			
	栽培面積 (a)	生産量			栽培面積 (a)	生産量		
		収量 (kg)	袋・箱	袋箱/ a		収量 (kg)	袋・箱	袋箱/a
小 松 菜	20.3	2,400	12,000袋	600袋	9.2	967	4,835袋	525袋
ほうれん草	1.8	270	1,350袋	750袋	0.0			
サニーレタス	14.6	2,190	8,760袋	600袋	0.0			
ト マ ト	4.0	1,600	400箱	100箱	4.0	936	234箱	58箱

耕畜連携稲わら生産実績（JA稲わら生産供給組合）

稲わら	計 画				実 績			
	採集 面積 (a)	生産量			採集 面積 (a)	生産量		
		収集量 (kg)	梱包 (10kg)	梱包/反		収集量 (kg)	梱包 (10kg)	梱包/反
飼料用稲わら	1,200	48,000	4,800	400	1,000	33,390	3,339	333
合 計	1,200	48,000	4,800	400	1,000	33,390	3,339	333

[労 務]

世情からか、国策なのか！！集落外より就農希望者が後を絶たない今日「我が集落は我が集落民で護る」の言葉どおりオペレーターグループにおいて、若年オペレーターの参加が少しではありますが増え、今後の集落営農として明るい兆しを見せてきた1年でした。一方、年齢上昇中のすこやか、なごやか営農グループの皆様にはしっかり汗をかいていただきました。

労働力の見直しが懸念され、体制整備中のなかで労働時間の縮減に取り組み、歯を食いしばって戦った結果が下表の通りです。

労務管理実績表

（単位：時間）

	計画	実 績					計画比 (%)	
		役員・OP	すこやかG	なごやかG	その他	合計		
穀類	水 稻 (7品種)	3,030	2,445	575		93	3,113	102.7%
	稲わら生産収集	600	184	100			284	47.3%
	小 麦 (農林61号)	675	514	125		8	647	95.9%
	大 豆 (種子・一般食糧)	3,420	544	2,697		11	3,252	95.1%
	計	7,725	3,687	3,497	0	112	7,296	94.4%
野菜	露 地 (5品種)	3,440	599	1,916		51	2,566	74.6%
	ハ ウ ス (3品種)	2,190	176	7	833	9	1,025	46.8%
	計	5,630	775	1,923	833	60	3,591	63.8%
共 通 (営業・事務・機械施設管理)	1,500	2,025	32		21	2,078	138.5%	
合 計	14,855	6,487	5,452	833	193	12,965	87.3%	

営 業 部

昨年8月の政権交代により農業政策は大きく方向転換となり、農業情勢は不透明な状況になっております。このことにより、自らが担い手として生きていく策が必要で、営業部の役割と責任の重さを痛感致しました。今年度は役員交代により手探り状態からのスタートでしたが、7月に国の経済危機対策「集落営農法人化等推進事業」の採択を受け企画管理部と連携して まずは、県道泉水口線の交差点に「酒人ふぁ～む」の案内看板の設置を行いました。また、組織概要及び販促に向けたパンフレットの作成を行い、これを活用して営業活動の強化を図っております。

穀類市場（マーケット）別実績

水 稻		計 画			実 績			
		出荷量(俵)	単価(円/俵)	販売高(千円)	出荷量(俵)	単価(円/俵)	販売高(千円)	対比(%)
業 販	うるち玄米	1,054.0	12,500	13,175	1,065.5	12,062	12,852	98%
	もち(羽二重)玄米	541.0	15,000	8,115	416.5	16,886	7,033	87%
	過年度精算	-	-	-	-	-	2,100	-
	小 計	1,595.0	13,340	21,290	1,482.0	14,835	21,985	103%
直 販	うるち玄米	600.0	16,500	9,900	529.0	17,795	9,414	95%
	もち(羽二重)玄米	20.0	20,000	400	12.0	20,000	240	60%
	小 計	620.0	16,610	10,300	541.0	17,845	9,654	94%
合 計		2,215.0	14,260	31,590	2,023.0	15,640	31,639	100%

(実績については、くず米の収入及び過年度の精算見込みを含んでいます。)

小 麦 農林61号	計 画			実 績			
	出荷量(俵)	単価(円/俵)	販売高(千円)	出荷量(俵)	単価(円/俵)	販売高(千円)	対比(%)
業 販	725.0	1,000	725	792	1,590	1,259	174%
過年度精算	-	-	-	-	-	188	-
直 販	-	-	-	-	-	-	-
合 計	725.0	1,000	725	792	1,590	1,447	200%

(実績については、くず麦の収入及び過年度の精算見込みを含んでいます。)

大 豆 ふくゆたか	計 画			実 績				
	出荷量(俵)	単価(円/俵)	販売高(千円)	出荷量(俵)	単価(円/俵)	販売高(千円)	対比(%)	
業 販	種 子 用	270.0	27,000	7,290	200.0	25,200	5,040	69%
	食 糧 用	193.0	3,000	579	50.0	3,000	150	26%
	過年度精算	-	-	-	-	-	1,109	-%
	小 計	463.0	16,995	7,869	250.0	25,190	6,299	80%
直 販	種 子 用	-	-	-	-	-	-	-%
	食 糧 用	-	-	-	-	-	-	-%
	小 計	-	-	-	-	-	-	-%
合 計		463.0	16,995	7,869	250.0	25,190	6,299	80%

(実績については、くず大豆の収入及び過年度の精算見込みを含んでいます。)

野菜栽培形態別販売実績

野菜	計 画			実 績				
	出荷量	単価(円)	販売高(千円)	出荷量	単価(円)	販売高(千円)	対比(%)	
露地	ブロッコリー	1,200箱	1,000	1,200	1,030箱	1,013	1,043	87%
	白菜	540箱	700	378	410箱	702	288	76%
	キャベツ	-	-	-	-	-	-	-%
	えびす南瓜	480箱	1,000	480	136箱	1,515	206	43%
	いちじく	750パック	400	300	-	-	-	-%
	小計	-	-	2,358	-	-	1,537	65%
ハウス	小松菜	12,000袋	70	840	4,835袋	75	365	43%
	ほうれん草	1,350袋	100	135	-	-	-	-%
	サニーレタス	8,760袋	70	613	-	-	-	-%
	トマト	400箱	1,050	420	234箱	1,050	245	58%
	その他野菜	-	-	-	袋	-	-	-%
	小計	-	-	2,008	-	-	610	30%
合計	-	-	4,366	-	-	2,147	49%	

野菜市場(マーケット)別販売実績

品目	業 販				直 販				合 計	
	大津・京都市場出荷		水口地方卸売市場		花野果市JA直売所		イベント・直売		数量 (-)	販売高 (千円)
	数量 (束箱)	販売高 (千円)	数量 (束箱)	販売高 (千円)	数量 (袋束箱)	販売高 (千円)	数量 (束箱)	販売高 (千円)		
ブロッコリー	1,003	990	-	-	301	37	137	16	1,030	1,043
白菜	390	251	390	8	301	26	38	3	410	288
キャベツ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南瓜	136	206	-	-	-	-	-	-	136	206
小松菜	4,620	347	-	-	215	18	-	-	4,835	365
サニーレタス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
トマト	12	14	118	115	475	105	40	11	234	245
みずな他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	-	1,808	-	123	-	186	-	30	-	2,147

業販=JA・市場等への業者を通じた販売(学校給食含む)

直販=直売所、ネット等を通じた直接販売

耕畜連携稲わら販売実績(JA甲賀郡稲わら生産供給組合)

稲わら	業 販		出荷量(梱包)	出荷単価(円/梱包)	販売高(円)	
	飼料用稲わら	配 達		3,339	420	1,402,380
		引 取		-	-	-
合 計			3,339	420	1,402,380	
JA稲わら生産供給組合必要経費					308,492	
差引売上合計					1,093,888	

機械施設部

「農業」と「環境」をテーマに始まった第四次3ヶ年の中間年に当たる21年度は、乾燥調整施設の内面に防音板を貼り付け、外部への騒音が少しでも軽減できる処置をとりました。

オペレーターの農業機械の操作技術習得については、若年オペレーターの出勤も徐々にではありますが増えてきており、機械操作を習得させておる状況です。尚一層の参加を望みます。

新規の機械導入につきましては、21年度の農林水産省補助事業で「集落営農法人化等緊急整備・推進事業」による助成を受けて、下記の機械を導入しました。従来の機械と併せてこれらの機械も大切に使う所存です。



尚、同事業における推進事業の中で生産部・営業部と連携をして下記のことに取り組み将来に備えました。

乾燥調整施設防音対策

(単位：円)

取得資産名	取得額	支払方法	備考
乾燥調整施設防音工事	450,000	自己資金(現金一括)	上装工業

「集落営農法人化等整備事業」による導入機械(1/2助成)事業完了

(単位：円)

取得資産名	取得額	支払方法		備考
		国庫補助	自己資金	
6条刈白脱型コンバイン	10,850,000	5,425,000	5,425,000	JA 農機課
乗用管理機刈刈グループ	4,540,000	2,270,000	2,270,000	JA 農機課
8条植乗用田植機	3,300,000	1,650,000	1,650,000	JA 農機課
ブームモーター	2,800,000	1,400,000	1,400,000	JA 農機課
フォークリフト(2.5t)	2,300,000	1,150,000	1,150,000	JA 農機課
畦塗機	780,000	390,000	390,000	JA 農機課
真空播種機	150,000	75,000	75,000	JA 農機課
合計	24,720,000	12,360,000	12,360,000	

自己資金の12,000,000円は、日本政策金融公庫(スモール資金・7年0.8%)より資金調達予定

「集落営農法人化等推進事業」による整備(上限500万円;国庫全額助成)

21~22年3月末継続事業 (単位：円)

事業内容	事業費	支払方法		備考
		国庫補助	自己資金	
酒人ふぁ～む案内看板 (直販対策)	122,850	122,850		(有)近江安全
いちじく防寒・防鳥 対策資材	950,250	950,250		工事直営
いちじくビニール ハウスポット栽培資材	690,330	690,330		工事直営
合計	(21年度概算) 1,763,430	(概算) 1,763,430		国庫21年度事業 につき3月末確定

企画管理部

視察者が1万人を突破し、組合の知名度は定着したものの、生産物に対するブランド化は一向に進まない状況です。そこで、組織の問題点を洗い直し、新しいビジョン策定につなげる経営診断を受けることにしました。世の中が変わっている中、組合のあり方も変えていかなければなりません。次のステップのための事業がスタートしています。一層のご協力をよろしくお願いいたします。

【主に取り組んだ内容】

「収穫感謝祭 2009」

11月22日(いい夫婦の日)に、発足10周年記念イベントとして収穫感謝祭および導入機械の祈祷式を開催しました。組合員はじめ多くの区民の皆様の参加をいただき大盛況で終えることができました。まさに「人の輪と集落の和」そのものでした。



集落営農法人化等推進活動スタート

平成21年度集落営農法人化等緊急整備推進事業の推進活動が国庫補助対象となることから、法人化している当組合でも組織強化のチャンスと捉え、各部で役割分担し、3月末に向け活動中です。

1	法人化等経営分析	企画管理部
2	経営多角化戦略プラン等の作成にかかる調査活動	企画管理部
3	市場調査	営業部・企画管理部
4	商品開発および加工実習	生産部・機械施設部
5	販売促進活動	営業部
6	インターネットを利用した販売促進と情報共有	企画管理部
7	先進地視察ほか	企画管理部

経営コンサルタントによる経営診断(推進活動)

これからの10年を展望するとき、新しいビジョン策定が大きな課題となっています。そのための現状認識および現状分析を外部経営コンサルタントに経営分析(経営診断)を依頼し、的確なアドバイスを得ています。

鐘井経営事務所 鐘井 輝 氏(中小企業診断士)

組合員各位には、消費者ニーズ調査、組合員意識調査等ご協力ありがとうございました。要望にすべてお応えできませんが、できる限り経営に役立ててまいります。

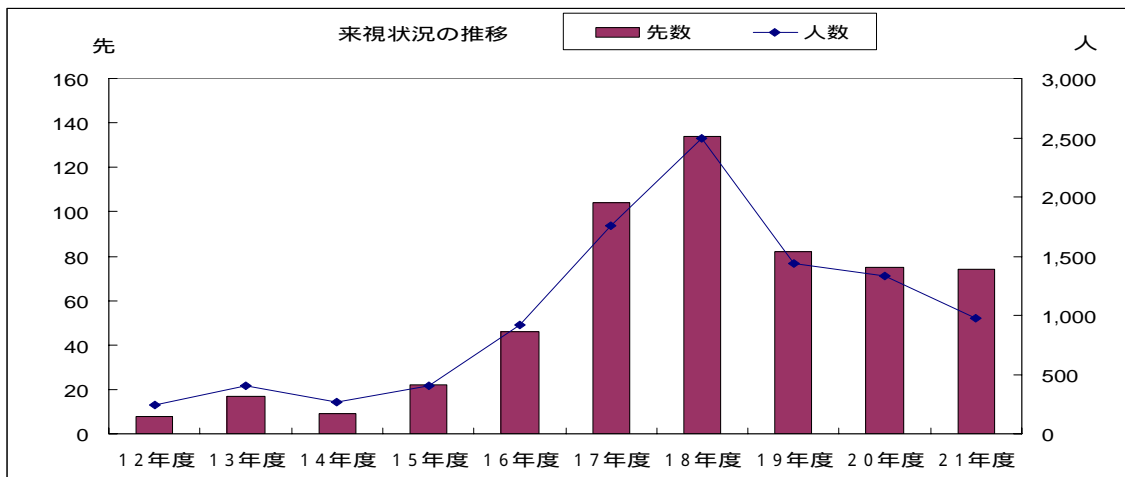
法人による農地取得

物件 = 字伊賀道1269番 田 9,720 m² ¥11,664,000 1200 円/m²
 酒人農用地利用改善団体・甲賀市・甲賀市農業委員会の指導を受け、現在の拠点施設の隣地であることから、農業経営基盤強化促進事業の認可を受け、集落内農地保全と将来の利用価値を総合的に判断した上で、農業経営基盤強化準備金を取崩し取得しました。尚、全体の資金繰りを勘案し農地取得無コスト資金の調達を申請中です。

視察者累計1万人突破！（別紙参照）

年度	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
先数	8	17	9	22	46	104	134	82	75	74
人数	247	403	267	408	918	1,760	2,494	1,439	1,336	974

これまでに、延べ571団体、10,246人の方が来村されました。



今年度の掲載記事

メディア	月日	内 容
日本農業新聞	2/11	採種大豆選別任せて シルバーパワー発揮
日本農業新聞	3/11	農事組合法人「酒人ふぁ～む」10年先展望し資金策
日本農業新聞	3/20	農用地等集団化優良地区表彰 甲賀市が大臣賞
日本農業新聞	4/17	ブロッコリー省力化 ビークル散水試験
日本農業新聞	7/9	経済危機対策でリース事業相談
日本農業新聞	12/5	更新農機の安全円滑稼動を祈願
農山漁村文化協会	11/1	21世紀の日本を考える～オール"二兼"の集落に「農のこころ」を再生
滋賀県政策研修センター	11/27	「近江地元学研修」グループ発表

滋賀県職員の「近江地元学研修」地域に選ばれました

【集落営農はええのう】農業体験を通し集落営農を紹介いただきました。

研修 10/28～10/29 グループ発表 11/27

「手段と目的をごっちゃにしない（地域を守るための手段としての農業）」

「続けていける農業」「ど真剣に考える！」の《心に残る言葉》は、わたしたちも研修生から教えられた言葉です。以下滋賀県のHPから拝借しました。



【平成 21 年度来視状況】

月 日	来 視 先	内 容	人数
1 / 12	大阪大学 工学部学生 (福田)	研究	1
1 / 16	長野県上伊那郡本郷地区営農組合	先進事例視察	14
1 / 21	津市芸濃町萩野土地利用組合	先進事例視察	31
1 / 27	(株)千代田ラフト	NHK「日曜フォーラム」取材	1
	たつの市集落営農連絡協議会	先進事例視察	53
1 / 28	鹿児島県地域経済研究会	先進事例視察	11
1 / 29	大津市八屋戸農業関係者	先進事例視察	20
1 / 31	楽農ファームかむら営農生産組合	先進事例視察	14
2 / 7	愛媛県東温市青年農業者協議会	先進事例視察	8
2 / 10	鳥取県 佐治川清流米きらりの会	先進事例視察	10
	三菱総合研究所 研究員	取材調査	1
2 / 13	富山県南砺市信末営農組合	先進事例視察	24
	福井市ファーム勝見営農生産組合	先進事例視察	10
2 / 14	高島市 三重生水・緑・和の会	先進事例視察	6
2 / 15	東近江市 農事組合法人高木営農組合	先進事例視察	23
2 / 18	筑前あさくら農業協同組合	先進事例視察	6
2 / 19	福岡県南筑後地域農業改良普及センター	先進事例視察	1
2 / 20	岩手県南広域振興局一関総合支局農林部	先進事例視察	1
2 / 23	福岡県久留米市 山川営農組合	先進事例視察	11
2 / 24	宮城県大崎農業改良普及センター	先進事例視察	2
	とよさと特産物振興協議会	先進事例視察	14
2 / 28	長浜市「みずべの里」ほそえ環境保全の会	先進事例視察	20
3 / 8	土山町大野「元気の里」「ファーム里」	先進事例視察	18
	犬上郡甲良町北落地区営農生産組合	先進事例視察	11
3 / 9	群馬県東大室町集落営農機械化組合	先進事例視察	13
3 / 13	兵庫県丹波市 後地・前地農事組合	先進事例視察	15
3 / 15	東近江市大林営農組合	先進事例視察	11
3 / 22	東近江市上平木営農組合	先進事例視察	37
4 / 12	福井市清水山上環境保全隊	先進事例視察	27
4 / 17	三重県度会町一之瀬農業株式会社	先進事例視察	2
5 / 1	朝日新書 ライター・小田公美子	取材	1

月 日	来 視 先	内 容	人数
5 / 15	(社)関西経済連合会 産業部	調査・意見交換	4
6 / 5	兵庫県豊岡市 中谷農事組合法人	先進事例視察	5
6 / 14	草津市 不動浜ふるさと環境を守る会	先進事例視察	6
6 / 26	三重県紀宝町 大里農村環境活動組織	先進事例視察	10
7 / 2	兵庫県新温泉町農業委員会	先進事例視察	23
7 / 11	福井県越前市中平吹地区みどり会	先進事例視察	28
7 / 15	鹿児島県始良町議会建設経済常任委員会	先進事例視察	7
7 / 16	福岡県久留米市農業委員会	先進事例視察	11
7 / 23	秋田県農業協同組合中央会	先進事例視察	10
8 / 4	J A 全中 教育部教育企画課	先進事例視察	6
8 / 21	新潟県長岡市栃尾地域農業生産組織連絡協議会	先進事例視察	14
8 / 22	岐阜県美濃加茂市鷹の巣転作組合	先進事例視察	24
8 / 27	長崎県農業会議	先進事例視察	1
9 / 17	農山漁村文化協会	取材	1
9 / 27	農山漁村文化協会	取材	1
10 / 7	徳島市農業委員会	先進事例視察	15
10 / 15	名古屋大学文学部社会学専攻学生	研究	1
10 / 17	中央大学経済学部 学生研究員	研究	1
10 / 18	岐阜県高山市 瓜巢改良組合	先進事例視察	24
10 / 19	三重県 赤目地区稲作品質向上委員会	先進事例視察	14
10 / 22	福岡県 筑前朝倉農協普通作部会夜須支部	先進事例視察	12
10 / 29	中央農業総合研究センター 博士	研究	2
	富山県農業委員会	先進事例視察	20
10 / 30	神戸市農地改良協議会	先進事例視察	36
11 / 4	大津市公共職業安定所就農等支援相談員	調査	1
11 / 5	(株)アミ夕接続可能経済研究所	調査	3
11 / 6	兵庫県土地改良換地士部会	先進事例視察	15
11 / 7	米原市能登瀬環境保全会・営農組合	先進事例視察	19
11 / 10	岡山県津山市(農)アグリ堀坂	先進事例視察	17
	山形市大郷地区農政対策協議会	先進事例視察	15
11 / 11	近畿農政局 塚本局長ほか	戸別所得補償制度ヒアリング	3
11 / 17	岐阜県揖斐郡池田町水田農業推進協議会	先進事例視察	24

月 日	来 視 先	内 容	人数
11/19	J A 広島北部集落法人連絡協議会	先進事例視察	32
11/21	東近江市五個荘金堂町金堂営農組合	先進事例視察	25
	高月町(現長浜市)西柳野農地を守る会	先進事例視察	17
11/23	高島市マキノ町中庄ふるさとを守る会	先進事例視察	9
	山形県酒田市特定農業団体大洲ファーム	先進事例視察	3
11/24	福井県坂井農林総合事務所	先進事例視察	17
11/25	熊本球磨郡山江町農業委員会	先進事例視察	15
11/28	多賀町富之尾営農組合	先進事例視察	17
12/5	栗東市六地藏自治会	先進事例視察	16
12/13	兵庫県淡路市五斗長営農組合	先進事例視察	23
	東近江市池之尻営農組合	先進事例視察	10
合 計	74先(前年度比-1先)	974人(前年度比-362人)	

【平成21年度講師派遣】

月 日	派 遣 先	主 催	内 容
1/18	大津市田上関津	関津土地改良区	農地集積・法人経営研修
1/23	新潟市	新潟県信用農業協同組合連合会	農業法人経営者セミナー
1/28	大津市	大津地域農業センター	集落営農組織リ-ダー研修
2/6	広島市	広島県集落法人連絡協議会	集落法人推進大会
2/18	東近江地域農業センター	東近江地域担い手育成総合支援協議会	集落営農推進チーム講習会
5/14	甲賀合同庁舎	農林水産省	農政改革・米政策 意見交換会
6/27	竜王町庄	J A グリーン近江	法人化研修会
6/27	近江八幡市益田町	J A グリーン近江	法人化研修会
8/6	東近江地域農業センター	平田(八日市)福堂(能登川)	営農組合法人化相談会
		友定町(近江八幡)大森町(八日市)	
8/7	東近江地域農業センター	多賀町(近江八幡)今町(能登川)	営農組合法人化相談会
		池之尻(愛東)桜川東(蒲生)	
11/30	千代田区 主婦会館	全国農地集団化協議会	研究会 報告
12/16	千代田区 弘済会館	日本農業法人協会 全国稲作経営者会議	戸別所得補償制度意見交換
12/17	福岡県行橋市	京築地域農業・農村活性化協議会	集落営農法人組織情報交換会
12/22	宮城県大崎市	宮城県北部地方振興事務所	集落営農研修会

【平成21年度受講研修】

月 日	研 修	出 席 者	内 容
1 / 8	肥料・燃油高騰緊急対策事業	伴	相談・申請受付
	滋賀県担い手育成総合支援協議会	伴	意見交換会
1 / 15	水口町良質米研究会	伴	研修会
1 / 26	近畿府県農業法人組織現地交流会	東浦	講演、情報交流
1 / 27	水口納税協会新春講演会	福西	講演 賀詞交換会
1 / 31	甲賀地域農業者のつどい	副部長	講演、事例紹介
2 / 3	花野果倶楽部視察研修	伴、すこやか、なごやか	「六甲のめぐみ」視察
2 / 16	イチジク先進地視察研修会	伴、林勝	視察
2 / 19	甲賀・湖南食育フォーラム	なごやかG	展示、講演
2 / 20	あぐりたうんトーク	東浦、福西、伴	J A 甲賀
2 / 23	水口町露地野菜部会	林すこやかG長	視察研修会
2 / 24	滋賀県土地改良事業団体連合会甲賀支部研修会	東浦、小林、伴	講演、情報交換
2 / 27	大規模稲作経営者部会	東浦	総会
2 / 28	J A 甲賀特別栽培米生産部会	東浦	総会、推進大会
3 / 26	イチジク栽培技術研修会	伴	技術研修会
	水口町露地野菜部会	伴	総会
6 / 22	イチジク研修会	伴	技術研修会
7 / 1	水口町露地野菜部会	伴、山田	秋冬野菜作付計画会議
7 / 3	水口町良質米研究会	伴	研究会
8 / 20	トマト圃場巡回	なごやかG	圃場巡回
8 / 24	水口町良質米研究会	伴	視察研究会
8 / 26	J A 甲賀郡稲わら生産供給組合	伴	検討会
8 / 27	甲賀市観光協会	林	観光セミナー
9 / 7	大豆指定種子生産ほ場審査	伴	フクユタカ(第1期)
10 / 2	甲賀地域担い手育成総合支援協議会	福西、伴	リーダー交流会
11 / 13	J Aグループ滋賀農業機械大展示会	西村、伴 東浦、 すこやかG	展示会
11 / 14	J Aグループ滋賀農業機械大展示会	福西	展示会
12 / 2	大豆指定種子生産ほ場審査	伴	フクユタカ(第2期)
12 / 17	イチジク栽培技術研修会	伴、すこやかG	研修会
12 / 22	滋賀県担い手育成総合支援協議会	伴	研修

貸借対照表

農事組合法人酒人ふぁーむ

2009年12月31日現在

(単位:円)

資産の部		負債の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】	40,263,914	【流動負債】	40,719,454
現金・預金	15,070,576	未払金	40,301,636
売掛金	8,370,034	リース債務	345,618
農産物	58,950	未払法人税等	72,200
棚卸品	1,665,763	【固定負債】	50,249,704
未収金	7,276,794	長期借入金	45,144,305
仮払金	7,821,797	長期リース債務	1,036,854
【固定資産】	73,081,094	農業経営基盤強化準備金	4,068,545
【有形固定資産】	72,614,723	負債の部合計	90,969,158
建築物	44,615,395	純資産の部	
構築物	2,179,802	【資本金】	4,480,000
機械装置	15,338,540	出資金	4,480,000
農機具	44,309,005	【利益剰余金】	17,895,850
車両運搬具	2,630,000	利益準備金	4,480,000
工具器具備品	1,039,500	その他利益剰余金	0
減価償却累計額	42,415,588	当期末処分剰余金	13,415,850
土地	2,844,361		
リース資産	2,073,708		
【投資その他の資産】	466,371		
外部出資金	50,000		
保険積立金	416,371		
		純資産の部合計	22,375,850
資産の部合計	113,345,008	負債・純資産合計	113,345,008

損益計算書

農事組合法人酒人ふぁーむ

自 2009年 1月 1日 至 2009年12月31日

(単位:円)

科 目	金 額	
経常損益の部		
【事業損益の部】		
【事業収益】		
【販売高】		
販 売 高	43,319,609	
奨 励 助 成 金	22,104,447	
販 売 高 合 計		65,424,056
【事業費用】		
【生産原価】		
期首農産物棚卸高	36,900	
当期農産物原価	40,963,681	
合 計	41,000,581	
期末農産物棚卸高	58,950	
事 業 原 価		40,941,631
事 業 総 利 益		24,482,425
【事業管理費】		
事業管理費合計		3,821,631
事 業 利 益		20,660,794
【事業外損益の部】		
【事業外収益】		
受 取 利 息	5,736	
雑 収 入	1,433,263	
事 業 外 収 益 合 計		1,438,999
【事業外費用】		
支 払 利 息	653,424	
事 業 外 費 用 合 計		653,424
経 常 利 益 金 額		21,446,369
【特別損益の部】		
【特別利益】		
集積準備金取崩益	1,616,299	
経営基盤準備金取崩益	9,345,000	
特 別 利 益 合 計		10,961,299
【特別損失】		
固定資産圧縮損	18,164,640	
前期損益修正損	725,778	
特 別 損 失 合 計		18,890,418
税引前当期純利益金額		13,517,250
法 人 税 等		101,400
当 期 純 利 益 金 額		13,415,850

事業管理費内訳書

農事組合法人酒人ふぁーむ

自 2009年 1月 1日 至 2009年12月31日

(単位:円)

科 目	金 額
福 利 厚 生 費	154,281
教 育 ・ 研 修 費	48,000
旅 費 交 通 費	45,850
通 信 費	200,830
交 際 費	341,886
会 議 費	12,600
諸 会 費	277,722
水 道 光 熱 費	31,285
賃 借 料	70,000
事 務 用 消 耗 品 費	444,261
租 税 公 課	1,094,496
雑 費	732,920
税 務 顧 問 料	367,500
事 業 管 理 費 合 計	3,821,631

事業原価内訳書

農事組合法人酒人ふぁーむ

自 2009年 1月 1日 至 2009年12月31日

(単位:円)

科 目	金 額	
【総事業費用】		
【資材費】		
種 苗 費	3,440,050	
肥 料 費	5,786,868	
農 薬 費	2,327,643	
諸 材 料 費	763,293	
合 計	12,317,854	
資 材 費 合 計		12,317,854
【労務費】		
農 業 労 災 費	121,470	
労 務 費 合 計		121,470
【その他生産費】		
農 具 費	252,770	
作 業 委 託 料	2,180,824	
土 地 改 良 水 利 費	2,938,410	
動 力 光 熱 費	1,412,523	
修 繕 費	3,974,806	
荷 造 運 賃 発 送 費	288,656	
租 税 公 課	9,900	
機 械 賃 借 料	479,715	
機 械 リ ー 入 料	1,173,706	
年 貢 料 (借 地 料)	6,107,567	
生 産 調 整 拠 出 金	590,751	
農 業 共 済 費	1,290,437	
雑 費	137,100	
減 価 償 却 費	7,687,192	
そ の 他 生 産 費 合 計		28,524,357
当 期 事 業 原 価		40,963,681
合 計		40,963,681
当 期 農 産 物 原 価		40,963,681

剰余金処分案

(単位:円)

当期末処分剰余金の処分

項 目	金 額
当期末処分剰余金の処分	13,415,850
合 計	13,415,850
これを次のとおり処分する	
従事分量配当金	13,415,850
次期繰越剰余金	0

以上のとおり報告します。

附属明細書

平成21年度予算実績対比

自2009年1月1日～至2009年12月31日

(単位千円)

勘定科目	平成21年度予算額		実績額		差異金額	
	金額	金額/反	金額	金額/反	金額	金額/反
[耕作面積]	換算407.8反		換算407.8反			
		407.8		407.8		0
[事業収益]						
[販売高]						
販売高	45,010	110	43,320	106	-1,690	-4
奨励・助成金	21,057	52	22,104	54	1,047	3
販売高合計	66,067	162	65,424	160	-643	-2
[事業費用]						
[期首農産物棚卸]			37		37	
[期末農産物棚卸]			59		59	
[資材費]						
[生]種苗費	6,646	16	3,440	8	-3,206	-8
[生]肥料費	8,436	21	5,786	14	-2,650	-6
[生]農薬費	2,621	6	2,328	6	-293	-1
[生]諸材料費	593	1	763	2	170	0
生産資材費合計	18,296	45	12,317	30	-5,979	-15
[労務費]						
[生]農業労災費	400	1	121	0	-279	-1
労務費合計	400	1	121	0	-279	-1
[その他生産費]						
[生]動力光熱費	1,135	3	1,413	3	278	1
[生]修繕費	4,598	11	4,228	10	-370	-1
[生]機械賃借料	500	1	480	1	-20	0
[生]年貢料(借地料)	5,993	15	6,108	15	115	0
[生]作業委託料	1,968	5	2,180	5	212	1
[生]土地改良水利費	2,811	7	2,938	7	127	0
[生]農業共済費	638	2	1,290	3	652	2
[生]生調拠出金	657	2	591	1	-66	0
[生]機械リース料	2,205	5	1,174	3	-1,031	-3
[生]荷造運賃発送料	2,250	6	289	1	-1,961	-5
[生]雑費	298	1	147	0	-151	0
[生]減価償却費	5,889	14	7,687	19	1,798	4
その他生産費合計	28,942	71	28,525	70	-417	-1
事業費用合計	47,638	117	40,941	100	-6,697	-16
[事業総利益]	18,429	45	24,483	60	6,054	15
[生]労務費(従事分量配当)	13,429	33	13,416	33	-13	0
[改め事業総利益]	5,000	12	11,067	27	6,067	15
[事業管理費]						
事業管理費合計	5,000	12	3,822	9	-1,178	-3
[事業利益]	0	0	7,245	18	7,245	18
[事業外損益]	0		786	2	786	2
[経常利益]	0	0	8,031	20	8,031	20

(注)従事分量配当金は労務費として計算しています。

平成21年度事業実績明細表

自 2009/1/1 ~ 至 2009/12/31

単位:千円

勘定科目	米作		麦作		大豆		野菜		ハウス野菜		育苗	その他	合計
[耕作面積]	246.2反		145.0反		145.0反		13.3反		3.3反				
[事業収益]													
農産物売上高	31,421	128	1,447	10	6,300	43	1,538	116	611	185		0	41,317
その他売上高	1,642	7	0	0	0	0	0	0	0	0	2,636	-2,275	2,003
奨励助成金	4,257	17	12,198	84	5,198	36	451	34	0	0	0	0	22,104
売上高合計	37,320	152	13,645	94	11,498	79	1,989	150	611	185	2,636	-2,275	65,424
事業原価													
期首棚卸	37				0								37
[資材費]													
[生]種苗費	2,462	10	403	3	232	2	573	43	103	31	2,129	-2,462	3,440
[生]肥料費	2,917	12	2,393	17	0	0	477	36	0	0			5,787
[生]農薬費	1,301	5	99	1	700	5	224	17	4	1			2,328
[生]諸材料費	355	1	15	0	53	0	126	9	213	65	0	0	762
資材費合計	7,035	29	2,910	20	985	7	1,400	105	320	97	2,129	-2,462	12,317
[労務費]													
[生]労災保険費	61	0	27	0	27	0	4	0	2	1	0	0	121
労務費合計	61	0	27	0	27	0	4	0	2	1	0	0	121
[経費]													
[生]動力光熱費	708	3	318	2	318	2	42	3	28	8			1,414
[生]農具修繕費	2,115	9	951	7	951	7	127	10	84	25			4,228
[生]機械賃借料	331	1	0	0	0	0	150	11	0	0			481
[生]年貢料(借地料)	3,055	12	1,374	8	1,374	9	183	15	122	37			6,108
[生]作業委託料	0	0	1,481	10	700	5	0	0	0	0		0	2,181
[生]農業水利費	1,470	6	661	4	661	5	88	7	58	18			2,938
[生]農業共済費	580	2	391	3	261	2	35	3	23	7	0	0	1,290
[生]生調拠出金	591	2	0	0	0	0	0	0	0	0			591
[生]リース料	44	0	19	0	19	0	3	0	545	165	544	0	1,174
[生]荷造発送費	0	0	0	0	0	0	226	17	62	19			288
[生]減価償却費	3,844	16	1,730	12	1,730	12	231	17	153	46			7,688
[生]雑費	72	0	33	0	33	0	4	0	3	1	0		145
経費合計	12,810	52	6,958	48	6,047	42	1,089	82	1,078	327	544	0	28,526
期末棚卸	41				18								59
事業原価合計	19,902	81	9,895	68	7,041	49	2,493	187	1,400	424	2,673	-2,462	40,942
事業総利益	17,418	71	3,750	26	4,457	31	-504	-38	-789	-239	-37	187	24,482
[生]労務費	5,766	23	1,549	11	2,964	20	2,255	170	882	267			13,416
改め事業総利益	11,652	47	2,201	15	1,493	10	-2,759	-207	-1,671	-506	-37	187	11,066
[事業管理費]	1,911	8	860	6	860	6	115	9	76	23			3,822
事業利益	9,741	40	1,341	9	633	4	-2,874	-216	-1,747	-529	-37	187	7,244
[事業外損益]	396	2	175	1	175	1	24	2	16	5	0	0	786
経常損益	10,137	41	1,516	10	808	6	-2,850	-214	-1,731	-525	-37	187	8,030

(注) 従事分量配当金は労務費として計算しています。

監 査 報 告 書

平成 22 年 2 月 21 日

農事組合法人酒人ふぁ～む
代表理事 小林 伊佐治 様

監 事 東浦 常夫 ⑩

監 事 奥村 信行 ⑩

私たち監事は、平成 21 年 1 月 1 日から平成 21 年 12 月 31 日までの第 8 期事業年度の理事の職務の遂行、事業報告書、貸借対照表、損益計算書及び剰余金処分案並びに附属明細書について監査しました。その結果につき以下のとおり報告いたします。

- (1) 貸借対照表及び損益計算書は、法令及び定款に従い、組合の財産及び損益の状況を正しく示しているものと認めます。
- (2) 事業報告書は、法令及び定款に従い、組合の状況を正しく示しているものと認めます。
- (3) 剰余金処分案は、法令及び定款に適合しており、組合財産の状況及びその他の事情に照らし、指摘すべき事項は認められません。
- (4) 附属明細書については、特に指摘すべき事項は認められません。
- (5) 理事の職務遂行に関する不正の行為、又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はありません。

以上

第四次 3 カ年事業計画

平成 2 0 年度 ~ 平成 2 2 年度

〔基本テーマ〕

第一次 3 カ年 (1 1 年 ~ 1 3 年)

「夢・創意・挑戦」 時代にマッチした農業経営

第二次 3 カ年 (1 4 年 ~ 1 6 年)

「決断」と「実行」 「づくり」の時期

第三次 3 カ年 (1 7 年 ~ 1 9 年)

「自立」と「自律」 夢 (ビジョン) の具現化

第四次 3 カ年 (2 0 年 ~ 2 2 年)

「農業」と「環境」 「生きていく」新たな挑戦

〔理 念〕

- 1 . 人づくり
- 2 . 組織づくり
- 3 . 産地づくり
- 4 . 地域づくり

〔基本方針〕

- 1 . 「儲かる」から「儲ける」へ
- 2 . 「売れる」から「売 る」へ
- 3 . 「できる」から「作 る」へ
- 4 . 「参 加」から「参 画」へ
- 5 . 「集 落」から「地 域」へ

「限界集落」とは長野大教授の大野晃氏が提唱した概念で、65歳以上が50%を越え共同体の維持が困難になる集落のことをいう。国勢調査によると、滋賀県でも過疎化・高齢化で2000年では21カ所が2005年には32カ所に増え、高齢者比率(65歳以上)の平均も60.5%と2.9ポイント拡大している。

わが集落酒人も例外ではない。昨年から取り組んできた「農地・水・環境保全向上対策」も、農村環境の衰退を遅らせるための点滴にすぎない。補助金に頼らない次の仕組みを集落自身でつくりあげなければならない。

農村環境の源は農業そのものである。農業が農地を守り、さらには農村を守る。わが集落のビジョンは何をめざすのか。「生きている」集落なのか、「生かされている」集落なのか。将来を展望するとき、「生きている」にとどまらず、「生きていく」さらには「生き残る」強い集落でなければならない、と考える。

発足の精神に原点回帰し、農業を担っている誇りと安全・安心な農産物の提供といった生産者としての使命感をもち新たな課題に挑戦してまいります。

参 考

平成 22 年度戸別所得補償モデル対策

水田利活用自給力向上事業（自給率向上事業）

- 1．従来の産地確立交付金及び水田等有効活用促進交付金で水田を有効利用して 麦・大豆・飼料用米等の生産を行う販売農家に国からの直接支払い（従来は交付対象者に制限があった）
- 2．交付金単価は全国统一単価（その他作物を除く）で交付
- 3．現行に比べて交付額が減少する地域に対し、交付単価の加算ができる激変緩和措置を講じる（現在 未定）

【交付単価】

作 物	単価（10aあたり）
・麦・大豆・飼料作物	35,000 円
・新規需要米 （米粉用・飼料用・バイオ燃料用米・WCS用稲）	80,000 円
・そば、なたね、加工用米	20,000 円
・その他作物 （都道府県単位で単価設定可能）	10,000 円
・二毛作助成 （戦略作物どうし又は主食用米と戦略作物の組み合わせ）	15,000 円

米戸別所得補償モデル事業（米のモデル事業） 新規

- 1．「米の生産数量目標」に従い その範囲内で主食用米の生産を行った販売農家・集落営農
- 2．主食用米作付け面積より一律10aを差し引いた面積
- 3．交付単価は全国统一単価で交付
- 4．定額部分と変動部分に分かれる

交付単価	10aあたり	備考
定額部分	15,000 円	現状の標準的販売価格は、1俵当り生産費が1,700円過剰投資になっている。 （農水省試算、1700円×9俵/10a）
変動部分	当年度の販売価格が標準的販売価格（過去3年平均）を下回った場合、その差額を元に変動部分の交付単価を算定	

平成22年度事業計画書

生産部

昨年の総選挙における政権交代に伴い、水田経営所得安定対策の一部を残し、新たな対策として「米戸別所得保障モデル事業」と「水田利活用自給力向上事業」がセットで施行となり、生産調整の考え方が又担い手の位置づけが大きく変わろうとしております。さらに、消費場面では、安全、安心に加え低価格志向や産直志向への高まりを見せています。

このような新政策や情勢を的確に把握しつつ、本年度においては今までの作付け方針を維持しながら、食糧、農業、農村を担っている農業法人としての誇りと使命をもって取り組みます。

栽培

- ・営業部との両輪で「売のために作る」「求められているものを作る」をスローガンに安全、安心 顔の見える新鮮な食材を生産します。
- ・機械施設部と連携した農機の効率稼働による生産コスト削減に努めます。
- ・各グループとの連携をとり、野菜、果樹の栽培により力を入れます。

[重点方針]

1. 品質・環境に配慮した農業
減化学肥料、減農薬栽培技術の修得
2. 売価に見合った生産原価
コスト意識と営業意識の徹底
3. 的確な栽培管理
増収、品質アップ、安定技術による生産工程管理の実施
4. 新規作物・新技術の導入
イチジク栽培の定着と学校給食（食育畑）への対応強化

[事業計画]

2ブロックローテーションによる計画の完全達成!!

22年度穀類生産計画

水		栽培面積 (a)	10a当り		生産量	
			収量 (kg)	俵 (60kg)	総収量 (kg)	出荷量 (俵)
稲	うるち玄米	1,438.8	540	9.0	77,670	1,294.5
	もち(羽二重)玄米	604.3	480	8.5	30,840	514
	合計	2,043.1	531	8.85	108,510	1,808.5

小		栽培面積 (a)	10a当り		生産量	
			収量 (kg)	俵 (60kg)	総収量 (kg)	出荷量 (俵)
麦	農林61号	1,765.7	300	5	52,980	883
	合計	1,765.7	300	5	52,980	883

大		栽培面積 (a)	10a当り		生産量		
			収量 (kg)	俵 (60kg)	総収量 (kg)	出荷量 (俵)	
豆	ふくゆたか	種子用	1,262.5	180	3	22,725	379
		食糧用	626.2	210	3.5	13,150	219
	合計	1,888.7	190	3.17	35,875	598	

2 2年度野菜栽培形態別生産計画

露	品目	栽培面積 (a)	10a当り		生産量	
			収量 (kg)	出荷量	総収量 (kg)	出荷量
地	ブロッコリー	55.0	500	100箱	2,750	550箱
	白菜	35.0	3,000	200箱	10,500	700箱
	えびす南瓜	50.0	1,200	120箱	6,000	600箱
	いちじく	23.6				1,500パック
	たまねぎ	7.0	1,000	100箱	700	70箱

八	品目	栽培面積 (a)	1a当り		生産量	
			収量 (kg)	出荷量	総収量 (kg)	出荷量
ウ	小松菜	10.0	120	600袋	1,200	6,000袋
	こかぶ	5.0	500	50箱	2,500	250箱
ス	人参	8.0	300	300袋	2,400	2,400袋
	トマト	4.0	400	100箱	1,600	400箱

2 2年度耕畜連携稲わら生産計画 (JA稲わら生産供給組合)

稲		採集面積 (a)	10a当り		生産量	
			収集量 (kg)	梱包 (10kg)	総収集量 (kg)	出荷量 (梱包)
わ	飼料用稲わら	1,200	4,000	400	48,000	4,800
	合計	1,200	4,000	400	48,000	4,800

労 務

効率的な出役体制確立のため、企画管理部と伴に勤務意欲を高揚するソフト面での体制整備を行い、同時に農作業のマニュアル化を図ります。

[重点方針]

- 1 . 労務コスト低減 = 段取り八分で効率作業
- 2 . みんなで耕す = 快適環境で楽しく地域保全
- 3 . 未然に防ごう労働災害 = ユニホーム着用すればプロ

[事業計画]

作業手順の確立

作業マニュアルの作成と作物別管理特性のマニュアル化

就労時間が作物別収支のバロメーター

作物別労働配分の遵守

【作物別労働時間計画】

(単位 : 時間)

	水稲		小麦	大豆	露地 野菜	ハウス 野菜	共通	合計
	栽培・ 収穫	稲わら 収集	栽培・ 収穫	栽培・ 収穫	栽培・ 収穫	栽培・ 収穫	営業・ 事務・ 施設	
配分率	20%	3%	5%	23%	25%	14%	10%	100%
1月	50			1,500	200	130	100	1,980
2月	50			800	100	100	300	1,350
3月	80		50		140	200	100	570
4月	300		20		150	100	80	650
5月	500		100		200	150	100	1,050
6月	150		250	100	300	200	100	1,100
上期	1,130	0	420	2,400	1,090	880	780	6,700
7月	150			200	450	200	150	1,150
8月	150			100	350	180	120	900
9月	700	100		50	600	200	50	1,700
10月	500	300	50	50	500	200	100	1,700
11月	100		170	40	300	200	200	1,010
12月	100		20	500	300	200	100	1,220
下期	1,700	400	240	940	2,500	1,180	720	7,680
合計	2,830	400	660	3,340	3,590	2,060	1,500	14,380

営 業 部

農政事情が先行き不透明な中、今までの販売方法を改革していかなければなりません。また、食の安全・安心が求められる今、消費者に安心して消費してもらえる農産物を生産し、自らが販売することに一層力を入れ、営業活動をより積極的に進めていきます。

[重点方針]

1. 米の販路拡大戦略
6次産業化「志・農・工・商」で未来を拓く。
2. 農産物の地域ブランド戦略
売るために、村の文化を物語りに変え。



[事業計画]

販売体制の確立
酒人区外への販売システムづくり。

販売網の確立
インターネット等による「酒人ふあ〜む」の知名度アップ

22年度穀類市場（マーケット）別販売計画

水	業 販		出荷量(俵)	出荷単価(円/俵)	販売高(千円)
	うるち玄米		694	12,500	8,675
もち(羽二重)玄米		494	15,000	7,410	
小	計	1,188	13,540	16,085	
稲	直 販		販売量(俵)	販売単価(円/俵)	販売高(千円)
	うるち玄米		600	16,500	9,900
	もち(羽二重)玄米		20	20,000	400
	小	計	620	16,610	10,300
合 計		1,808	14,590	26,385	

小麦	業 販		出荷量(俵)	出荷単価(円/俵)	販売高(千円)
	農林61号		883	1,500	1,325
合 計		883	1,500	1,325	

大豆	業 販		出荷量(俵)	出荷単価(円/俵)	販売高(千円)
	ふくゆたか	種子用	379	25,000	9,475
		食糧用	219	3,000	657
小 計		598	16,940	10,132	

大豆	直 ふくゆたか	販	販売量(俵)	販売単価(円/俵)	販売高(千円)
		種子用	-	-	-
		食糧用	-	-	-
	小計	-	-	-	
合計		598	16,940	10,132	

22年度野菜栽培形態別販売計画

露地	品目	出荷量	売価単価(円)	販売高(千円)
	ブロッコリー	550箱	1,000	550
白菜	700箱	700	490	
えびす南瓜	600箱	1,000	600	
いちじく	1,500パック	400	600	
小計				2,240
ハウス	品目	出荷量	売価単価(円)	販売高(千円)
	小松菜	6,000袋	70	420
	こかぶ	250袋	750	188
	人参	2,400袋	120	288
	トマト	400箱	1,050	420
小計				1,316
合計				3,556

野菜市場(マーケット)別販売計画

品目	業販				直販				合計	
	大津・京都市場出荷		中食・外食・食材企業		花野果市JA直売所		イベント・直売		数量(-)	販売高(千円)
	数量(束・箱)	販売高(千円)	数量(束・箱)	販売高(千円)	数量(袋・束)	販売高(千円)	数量(束・箱)	販売高(千円)		
ブロッコリー	500	500	-	-	30	30	20	20	550	550
白菜	675	473	-	-	20	14	5	3	700	490
えびす南瓜	580	580	-	-	20	20	-	-	600	600
いちじく	1,200	480	-	-	300	120	-	-	1,500	600
小松菜	5,700	400	-	-	300	20	-	-	6,000	420
こかぶ	230	187	-	-	20	1	-	-	250	188
人参	2,000	240	-	-	400	48	-	-	2,400	288
トマト	200	210	-	-	170	170	30	40	400	420
合計	-	3,070	-	-	-	423	-	63	-	3,556

業販=JA・市場等への業者を通じた販売、直販=直売所、ネット等を通じた直接販売

耕畜連携稲わら販売計画(JA甲賀郡稲わら生産供給組合)

稲わら	業販		出荷量(梱包)	出荷単価(円/梱包)	販売高(千円)
	飼料用稲わら	配達	4,800	420	2,016
		引取			
合計		4,800	420	2,016	

機械施設部

農業の6次産業化を唱える政府の新たな担い手育成支援策「経営体育成交付金」政策に取り込まれるのではなく、取り込み迎合するわが法人のスタンスを堅持し、組合員のための備えを築く。

[重点方針]

1. 農機・施設の各機能を最大限に引き出し、かつ省エネ運用で経営改善の1丁目1番地を目指す。
 - ・オペレーターの機械・施設運転の習熟で効率運用
2. 機械・施設は組合員のもの、愛機愛機の日常管理を図る。
 - ・農機管理マニュアルの作成と管理台帳整備
 - ・洗機で発見異常箇所＝土は敷地内に持ち込まないマニュアル化
3. 修繕か更新か、旧小型農機の整理と支援策活用で費用対効果の物指し作り。
 - ・大型農機保守管理契約の見直しと整備・修繕・更新の判断基準策定

[事業計画]

「経営体育成交付金」の活用を図るため甲賀市マスタープラン計上申請。
 6次産業化
 効率運用
 付帯設備（施設改善含む）

投資計画(平成22年度～24年度)

(単位 円)

投資予定資産	取得費	交付金	自己負担	備考
サタケ光選別機 FGS-2,000 ライスセンターライン設置工事含む	2,350,000	1,175,000	1,175,000	22年度
サタケ穀類乾燥機 50石×2 ライスセンターライン設置工事含む	5,000,000	2,500,000	2,500,000	22年度
農産物直売所 農産物加工施設併設 内装工事	2,500,000	1,250,000	1,250,000	24年度
スガノバーチカルハロー 3m DC300SP	1,800,000	900,000	900,000	23年度
3連ローターリーカルチ 2台 RM312HKA	1,700,000	850,000	850,000	23年度
農機格納庫拡張工事 21m×9m 190㎡	5,500,000	2,750,000	2,750,000	24年度
施設敷地内排水工事	1,350,000	675,000	675,000	23年度
合 計	20,200,000	10,100,000	10,100,000	

投資額の 1/2 国庫補助（集落営農補助）

企画管理部

[重点方針]

1. 事業運営と進行管理の充実強化
2. 農作業のマニュアル化による後継者育成
3. ITを利用した連絡体制・情報共有化の改善
4. 賃金定例払いへの資金・事務処理体制の改善
5. 健全な経営基盤確立のため利用権設定と資金の充足と管理の徹底

[具体的実施内容]

1. 事業運営と進行管理の充実強化

各部の平成22年度事業計画に示す経営戦略を着実に実現するため、企画・総務・経理の職務の中で、後方支援体制の充実強化を図るとともに、実績管理を定期的に行い経営状況のタイムリーな開示に努める。

2. 後継者育成と作業の見える化

オペレーターが膠着化する中で、幅広くオペレーターの勧誘を行うとともにオペレーターへの農作業ノウハウを継承するため、農作業のマニュアル化や定期的な情報交換会の実施による教育訓練を行い、後継者育成に努める。

3. ITを利用した連絡体制・情報共有のシステム化

各支援グループとの連絡体制をIT利用した方式を採用し、出役依頼の合理化を図るとともに、作業内容や生産状況を関係者間で共有化することにより、組合員全体が農業経営に参画する一体化した組織体制の整備を行う。

4. 賃金定例払いへの資金計画・事務処理体制の改善

組合員が出役意欲を高め、働き甲斐が持てる体制を整備するため、月次定例賃金支払いを行えるよう資金管理と事務体制の整備を行う。

5. 経営基盤確立のため利用権の設定と増資と資金管理体制の充実強化

効率的な農業経営の推進と儲ける農業への戦略展開を行い、収益の確保による経営基盤の確立を図るため、徹底した資金管理体制の充実整備を行う。

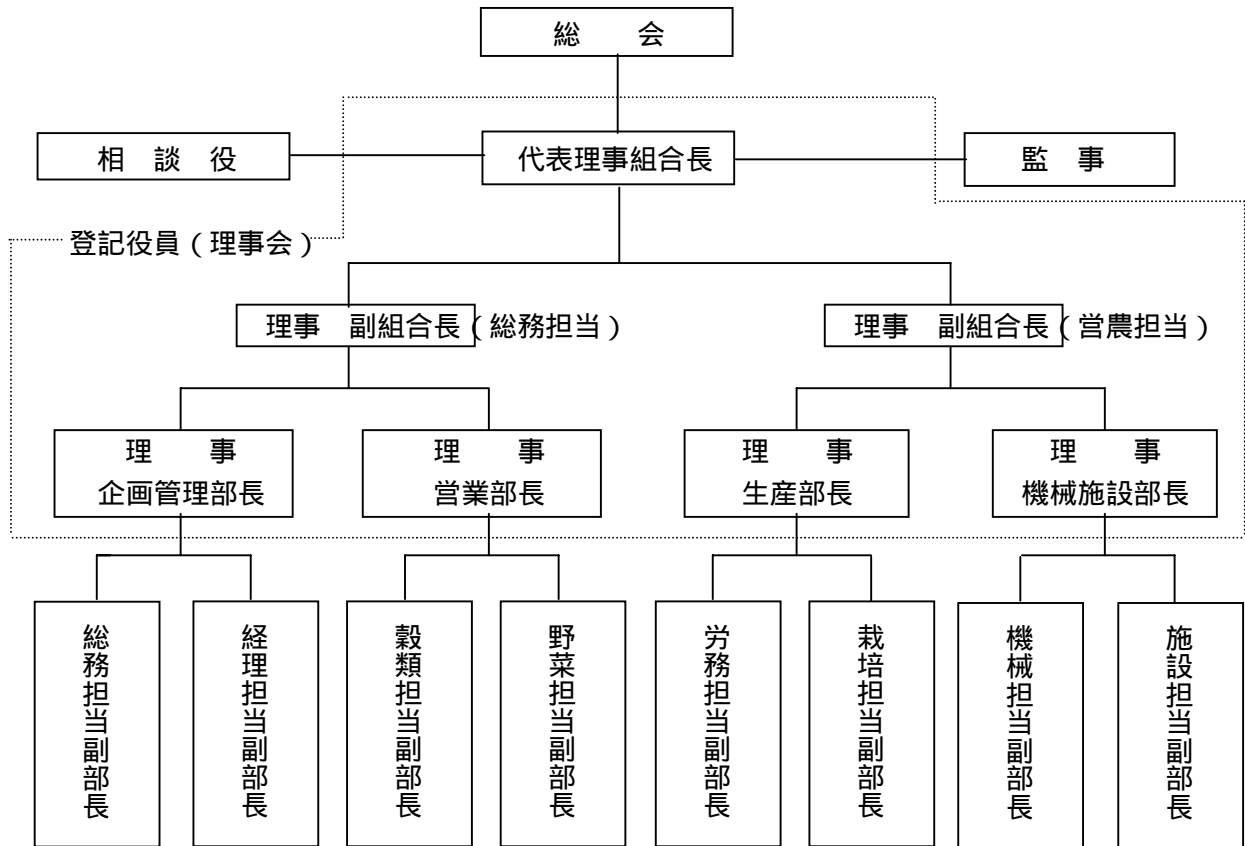
また、経営基盤と資本の充実を図るため、昨年度の総会で利用権の設定に伴う出資金の見直しと増資案を可決決定しておりましたが、その後の政権の交代により「農地集積加速化事業」が廃止となり頓挫。現政権の対策を期待しましたが動き無く、再度組合員皆様に利用権の設定と増資を依頼し、今後4年間段階的に出資積立（年貢支払時に控除）を行い、最終年度に資本に組み入れ（増資）を実施する計画を推進する。

出資金（現行）4,480,000円 （4年後目標）13,000,000円(1,300口)

反当たり¥5,000を毎期年貢支払時に控除積立させていただきます。

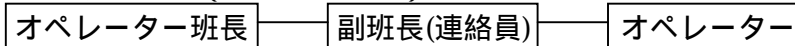
農事組合法人酒人ふぁ～む組織図

平成 22 年 2 月 28 日現在



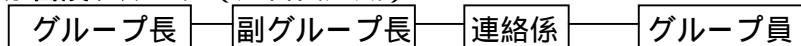
酒人ふぁ～む協力組織

オペレーターグループ (ふぁ～む直轄)



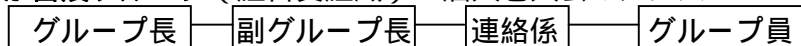
酒人区内に居住し、集落営農の趣旨に賛同し、オペレーターとして出役が可能で営農意欲のある 20 歳以上 55 歳以下の男子 (登録制)

なごやか営農グループ (組合員組織)



酒人区住民で、集落営農の趣旨に賛同し、組合の業務 (作業) に出役頂ける 56 歳以上 65 歳未満の男子及び 20 歳以上 65 歳未満の女子

すこやか営農グループ (組合員組織) ~ 酒人老人会のメンバー



シルバー世代の酒人区住民で、集落営農の趣旨に賛同し、組合の業務 (作業) の一部を担当頂くグループ

やすらぎ営農グループ (ボランティア) ~ 酒人敬老会の大関・横綱グループ

囲炉裏端会議のメンバーで、雑草取りの名人



農事組合法人 酒人ふぁ～む

2010/2/28